

# 「大学国際化のためのオンライン・コミュニティの実証的研究」

2002年度JAFSA調査・研究助成プログラム  
調査研究報告書

研究代表者：芦沢真五(大阪大学工学研究科留学生相談室)

## 目次

|             |   |
|-------------|---|
| . はじめに      | 1 |
| . プロジェクトの背景 | 1 |
| . GCNのユニーク性 | 2 |
| . GCNの現状と課題 | 4 |

2004年3月

## GCN ( Global Campus Net ) Osaka の運用開始と今後に向けて

<http://www.gcn-osaka.jp/>

### I. はじめに

2004年5月6日、オンライン・コミュニティー、「GCN Osaka」が実験運用を開始しました。大阪大学とその周辺を対象に、外国人研究者や留学生のためのコミュニティー・サイトとして、最初の歩みをはじめたのです。構想段階から2年近い期間を要し、阪大の教職員、学生、周辺自治体、国際交流関係のボランティアの方々に本当にお世話になりました。また、ご支援いただいた大阪大学留学生委員会、阪大フロンティア研究機構、E ジャパン協議会、支援企業、そして JAFSA(国際教育交流協議会)の関係者に厚くお礼申し上げます。

リーダーとしてかかわってくると、自分の子供が誕生したような不思議な気持ちになるのはなぜか、などと考えてしまいます。自分の子供の出来の「良し悪し」を意識しつつも、皆さんにかわいがってもらえるサイトにするため、さらに発展させていきたいと思っています。ここでは、このプロジェクトのリーダーとして、GCN Osaka というサイトを思いついた経緯とプロジェクトをすすめてきたプロセスを報告し、今後の課題を展望していきたいと思えます。

### II. プロジェクトの背景

#### 1) 大学の国際化と機構改革の課題

大学は世界に門戸をひらいて、宇宙をも対象にして学問したり研究したりするところですから、国際化しているのが当たり前です。「国」という概念を取りはらって学問・研究するため大学があると考えれば、国家間の戦争や文化摩擦を乗り越えて、多文化かつ多国籍の大学がもっと沢山あっていいはずですが、逆説的な言い方ですが、「国際化されていない大学」は大学と呼ぶにはふさわしくないのです。しかし、どうして繰り返し「大学の国際化」ということを論じられるか、というと現状の日本のほとんどの大学で欠けている「何か」があり、それをなんとかしないと国際競争に負けてしまう、という焦りが背景にあるからです。「大学の国際化」というテーマを個々の大学で論議すると、「大学の国際化とは」という定義づけのところで、禅問答のようになってしまうのは、理念や長期計画を話すべきところで、いきなり競争力やランキングの話をしているからです。「国際化」の定義不在のまま「国際化」という掛け声が先行してしまっているのです。

日本全国の大学で、留学生の受入にかかわる取り組みが、地域の国際交流団体を巻き込んだ形ですめられてきました。この地道な取り組みの反面、留学生に対する大学の対応について不十分さを指摘する声はいまだに根強いのです。最大の問題は留学生や外国人研究者をささえるサービスがなかなか外から見えずらい、ということでしょう。多種多様なサービスがあるのに、これを一括して見えるようにするシステムは存在しないし、機能面でサービスの提供窓口が分散していることや、情報の提供が分かりづらいことに批判が集中

しています。留学生から「事務室の掲示板を見てもどれが自分に関係ある情報かを見分けるのに苦労している」という声も耳にします。ある大学で実際にあった話ですが、著名な研究者を招聘したのに、本人が来日するにあたってビザ申請が遅れたうえ、来日しても机もコンピューターもなく、本人と英語で事務的な相談をできるスタッフが不在で、E-mailのアカウントをとるだけで1週間、家や子供の学校の問題を解決するのに2ヶ月、ようやく研究に集中できるようになるのに3ヶ月を要しました。一見、極端に見える事例かもしれませんが、程度の差こそあれ、日本の多くの大学では同様の悩みをかかえています。海外からの優秀な研究者や留学生を受け入れた際、これらの人々が十分に力を発揮できるように環境・整備していくことが、大学に求められていると思います。

## 2) GCN (Global Campus Net) Osakaで何が変わるか? 変えたいか?

このプロジェクトを思いついたきっかけは、上記のような現状を少しでも改善できればと思ったからです。少なくともオンライン上の情報提供について、可能な限りワンストップ・サービスを実現したいと考えました。また、大阪大学の留学生、研究者、周辺の住む外国人の方が主体的に情報交換したり、助け合ったりするような環境をつくりたいと考えました。さらに、サービスや情報の上からの一方的な流れではなく、水平志向でいきたいと思いました。海外から新たに阪大周辺に引っ越してきた人にとっては、「先輩」である留学生や研究者からの情報はとても有効だからです。われわれのような留学生に助言をする立場の人間も、外国人研究者から教えてもらった地域の子育て支援情報を、「新人」の留学生に教えてあげる、ということは本当に多いのです。もし、多くの留学生や研究者が「面白いから使ってみよう」「自分のもってる情報を役立ててもらおう」という気持ちになってくれたら、きっと自律的にキャンパス環境を改善する道具として機能していく、と期待しています。私たちの仕事は留学生や研究者と直接会って、顔をつきあわせてこそ成り立っている面がありますが、対面のコミュニケーションとオンラインの情報交換を相互に補完させていきたいと思っています。

## III. GCNのユニーク性

### 1) 国際教育の産官学連携と多様なコンテンツ作成者

このサイト(GCN Osaka)では、留学生や研究者が単なる「サービスの受け手」ではなく、コミュニティーの一員として主体的に参加し貢献できるようなシステムをめざしています。2003年5月6日に、多言語掲示板や日本語オンライン教材を備え、本格的な試験運用がスタートしました。このプロジェクトには、大阪大学内の国際交流や地域連携を推進する組織の関係者が参加するほか、地域の自治体国際交流協会や国際交流団体などにご協力いただいています。同時に、地域に住む外国人の方にも積極的に参加してもらえるように設計されています。なお、このプロジェクトは、阪大フロンティア研究機構(科学技術振興調整費充当)、E ジャパン協議会、JAFSA(国際教育交流協議会)などの支援と複数の企業からの協賛を得ています。このことからわかるように、GCN Osakaは、

国際教育にかかわる産関学の連携を推進しています。

さらに、このGCN Osakaがユニークな点は、大学の教職員以外に多用なスタッフがコンテンツの作成にかかわってくれたことがあります。前述した団体の方以外に、日本語学校の講師の方、留学生のボランティア、大学院生、医療通訳など地域のボランティア団体から個人で参加してくれた方など、主体的にかかわってくれました。このような人的ネットワークが新たに築かれていったこともGCN Osakaの大きな財産です。

## 2) 国際教育関連の情報を網羅(多言語掲示板を軸に)

GCN Osakaのメニューを見ていただければわかりますが、留学生の受入れに関連する事項以外にも、オンライン日本語学習、海外への留学情報など、国際教育にかかわるメニューを網羅しようとしています。また、ほとんどのメニューで多言語掲示板(Multilingual BBS)を活用することができます。このBBSは、コミュニティのメンバー同士のコミュニケーションに利用されるものですが、英語と日本語だけでなく、中国語、韓国語、タイ語、アラビア語など、ユニコードで対応するすべての言語での書き込みが可能です。したがって、来日したばかりの留学生の家族が自国語で医療や子育てに関する質問を投稿し、同国語で先輩留学生が答えることも可能になりました。

## 3) オンライン日本語教材と日本語学習ひろば

GCN Osakaのメインメニューの一つに「日本語学習」のページがあります。このページには、初級レベルの日本語学習者のための「GCNいちよう日本語」というオンライン教材や理工系日本語の教材が収められています。また、日本語学習者のために、無料で利用できるオンライン学習リソースの紹介、阪大周辺で実施されている日本語講座(主に自治体の国際交流協会やボランティア団体が主催するもの)をリストアップしています。このサイトを通じて、利用者同士がお互いの言語を教えあったり(language partner)、学習者同士が意見交換できるようになればと願っています。

## 4) 海外の同窓生の組織化を目指す(GCN Worldwideの開発)

GCN Osakaの開発と機を一にして、大阪大学では海外にいる阪大卒業生をネットワークで繋ごうという試みがスタートしています。これは、GCN Worldwideというサイト名ですでに仮運用を2004年3月に開始しています。日本の国立大学でこのような取り組みは始めてのようですが、同窓生のネットワーク化はすでに複数の私立大学ではすすんでおりますし、海外では当たり前のことになっています。今回、GCN Osakaのシステム設計と平行してGCN Worldwideを開発できたことは非常に大きな意味を持っていると思います。というのも、GCN Osakaと連動することによって、在学する留学生と卒業生がネット上で情報交換したりすることも可能ですし、GCN Osakaで培ったオンライン上でのコミュニケーションが卒業後も継続することができるからです。GCN Worldwideを本格的に運用するためには、過去にさかのぼって、卒業生のデータを掘り起こしたり、広報を徹底するなど、大学としての組織的な取り組みが必要です。課題を克服しながら、本格的な運用を目指した

いと思います。

#### IV. GCNの現状と課題

##### 1) GCN Osaka に登録されているメンバーと現在の利用状況 (7月1日現在)

###### <メンバーの登録状況>

現在、GCNのメンバーは、阪大に学籍がある留学生を主体とするコア・メンバーと、自主的に登録申請したメンバーによってなっています。

コアメンバー登録人員:1065人

一般メンバー登録人員:180人(うち学内113名)

###### <コンテンツ配信>

GCN Osakaでは、Webマスターが情報をもっぱら編集するのではなく、できるだけ、情報の発信者が直接、書き込みをできる体制をとることを目標にしています。このため、学内外の32名(学外は、地域のボランティア団体など9名)の方を「コンテンツ配信者」として登録し、この方々に直接情報(たとえばイベント情報)を入力してもらえようシステムを制作した。

| 配信メッセージ件数 | 24件 |
|-----------|-----|
| イベント情報    | 17  |
| 求人・アルバイト  | 2   |
| 留学情報      | 3   |
| 物品情報      | 2   |

###### <多言語掲示板>

多言語掲示板についても、各種の情報が掲載されている。

| 項目別      | 44件 | 言語別 | 44件 |
|----------|-----|-----|-----|
| 日本語教室    | 6   | 日本語 | 14  |
| 保健医療・子育て | 1   | 韓国語 | 13  |
| 留学情報     | 5   | 英語  | 10  |
| 英語学習     | 1   | 中国語 | 7   |
| イベント情報   | 14  |     |     |
| 物品リサイクル  | 7   |     |     |
| 住宅情報     | 1   |     |     |
| 求人情報     | 10  |     |     |

###### <アクセス統計>

###### ● アクセス数

1600人が合計3816回アクセスし、33000ページが閲覧された。

一日平均:64回

1回につき:平均8~9page

学内:56% 学外:44%

###### ● メンバーログイン(IDとPasswordによるログイン)

460人(ユニークIP) 1622回

ログインパスワードを持つ460人が平均して約4回のログインをしている。  
学内:62% 学外:38%

- 日本語教材のダウンロード回数  
779回/167人、4.7回/1人
- 特徴  
ログインパスワードの配布が大きな影響を持つ。  
読売新聞に掲載された直後よりアクセスが2~3倍程度に増加している。  
(さらなる広報活動が必要である。)  
休日(土・日)のアクセスは、平日の約1/3、  
大阪大学の留学生からのアクセスが大半を占める。  
周辺地域に住む外国人に対する広報活動も、今後重要となる。

## 2) GCN Osaka を支える組織体制(運営機構準備会の取り組み)

GCN Osaka の運営にあたって、運営主体をどうするのが一つの課題でした。大阪大学を中心に周辺の自治体国際交流協会、ボランティア団体、支援企業と、産官学の連携体制でスタートしたプロジェクトですので、このような連携を形にするような運営主体を形成する必要があると考え、関係者機関の方にお集まりいただいて GCN Osaka 運営機構準備会を2回にわたって開催しました。運営機構が正式にスタートすると、以下のような事項を運営機構が審議して決定していきます。

- GCN Osakaの中長期計画にかかわる事項および基本方針にかかわる事項
- メンバーの資格に関する事項
- オンライン上の不正行為に関するガイドライン策定と罰則規定に関する事項
- 知的財産権、著作権、プライバシーにかかわる事項

## 3) 今後の方針と当面のサイト・リニューアル

2004年5月6日に実験運用を開始した直後から、ログなどから利用状況を確認し、メンバーへのヒアリングも繰り返しおこなってきました。その結果、サイトのページ構成やコンテンツの修正、多言語掲示板 BBS の利便性の改善、認証がかかっているページの見直しなど、改善事項が指摘されてきました。また、一部のコンテンツで文字だけでなく、イラストや写真を使ってほしい、という声もありました。こうした利用者の声を少しでも反映させるため、現在、ページ構成とデザインを改修する作業をおこなっています。2004年中を目途に全面的なリニューアルをおこなう予定です。

今度とも、より多くの方に利用してもらえよう GCN Osaka のを改良し続けていきたい

と思いますので、関係者の皆様のご支援・ご協力をお願いしたいと思います。